



写真-1 飛行中のサシバ (撮影 谷 祐樹)

サシバプロジェクトin大阪の成り立ち

日本の原風景と言われている「里山」の自然が、生物の多様な環境と注目されて30年以上経った。一言で「里山」と言っても、各地域や、背景により違いがある。各々の「里山環境」の特性、地域性、変化が一見ただけでは把握しにくく、また、気が付けばその環境の多様性が低くなったり、開発等で消失したりするのを目の当たりにする。

サシバプロジェクトin大阪(以下サシバP)では「里山の猛禽類」のシンボルであるサシバにスポットを当て、サシバ生息の現状を調査し生物多様な環境の指標にしようと、2014年に大阪自然環境保全協会、日本野鳥の会大阪支部、大阪市立自然史博物館、自然環境に係わるコンサルタント会社や、フリーランス調査員などの有志が集まり立ち上げた。

現在までの取り組み

- ・2014年:サシバP立ち上げ、大阪府内のサシバ生息情報収集と現地確認、事前調査を行う。
- ・2015年:大阪バードフェスティバルに出展し、シンポジウム「大阪のサシバの現状」を講演(大西氏)
- ・2015年～:府内のサシバ生息現地調査を始め、その後モニタリング調査継続中。

- ・2016-2017年:「1977年～1980年大阪南部37箇所のサシバ繁殖の記録」(小島氏)を提供して頂き、その後のサシバの生息をフォローアップ調査する。
- ・2016年～:自然史フェスティバル出展、その後ほぼ毎年出展する。
- ・2016年:バードリサーチ・ガンカモ談話会「大阪府のサシバの現状」を講演(大西氏)
- ・2017年:とりがくKansai主催勉強会「2017年サシバ調査結果」、大阪自然環境保全協会主催公開記念講演会「大阪府のサシバの生息状況」を講演(小室)、大阪鳥類研究グループ「大阪府のサシバの現状」「大阪府のサシバの生息状況と繁殖阻害要因」、タカシル「サシバの大阪府における現状と生態」を講演(大西氏)
- ・2018年:オオタカネットワーク主催ワークショップ千早赤阪村を案内し「大阪府域におけるサシバ生息状況調査」、バードリサーチ15周年記念大会「大阪府域におけるサシバの生息状況」を講演(大西氏)、毎日新聞8月22日紙面掲載「里山の空サシバ消える？」
- ・2019年～:サシバ調査に興味のある一般の方向けに、サシバ調査体験学習会を始める。
- ・2020-2021年:コロナ感染予防のため現地調査中止
- ・2022年～:現地野帳をGoogleフォームを使用し収集する方法に変



写真-2 つがいのサシバ



写真-3 営巢林の状況



写真-4 サシバの生育環境(高槻市の水田)



写真-5 サシバ体験学習会

更、「Aサシバ生息情報調査(目撃情報収集)、Bサシバペア生息詳細調査」、オンラインで調査説明会開催
 ・2022年～:奄美大島宇検村で、サシバ越冬地調査を、とりがくKansaiと合同参加し、与名氏と交流する。
 ・2023年:緑の地球ネットワーク総会「里山のシンボル「サシバ」生態・保護・保全の実態」を講演(大西氏)

サシバの特徴と調査対象種として選んだ理由

サシバは、タカ目タカ科の猛禽類で、大きさは全長約50cm、翼開長約110cm、カラスより一回り小さい。体の上面、翼の上面は、赤みのある褐色、腹側には細かい横縞模様、白い眉斑が目立つ個体が多い。「ピックイー」と大きな声でよく鳴く。繁殖地でのテリトリー行動範囲は他の猛禽類より狭く、特徴的な鳴き声でよく鳴き、観察データが取りやすい種である。

春と秋の渡りの時期に、日本各地で見られる「鷹の渡り」の代表的な種として知名度が高い。4月～8月九州～東北の里山から山地で子育てを

し、世界的にみて、日本を中心としたその周辺の国だけが繁殖地である。サシバの主な食物は、両生類、爬虫類、小型哺乳類、昆虫調査、甲殻類、多足類など様々で、里山の生態系の多様性の指標となる種である。

人が生活する近くの2次的な自然環境を生息地とすることが多く、人の暮らし方や、農業や林業との関わりや影響が深い種である。このような観点からサシバ生息繁殖状況を調査する事が、その地域の生物多様な環境の指標となり、そこで暮らす人々や、活動する人たちに、理解、協力を得やすいと思われる。

交流していく、いきたい活動グループ

- ・2022年～:歌垣SATOYAMA学舎(能勢町)
- ・2023年～:カレーライスを本当に手作りするプロジェクト(富田林市)、太子町葉室里山クラブ
- ・今後交流したいグループや、調査:妙見里山倶楽部、箕面ナチュラルストクラブ、茨木・高槻自然に親しむ会、

空の会、野生シカ調査、里山一斉調査、里山指標生物調査等、考えていますのでよろしくお願ひいたします。

・大阪自然環境保全協会内だけでなく、日本野鳥の会大阪支部、オオカネネットワーク、とりがくKansai、奄美大島宇検村の方々とも交流を図っていきたくと考えています。

プロフィール:1962年大阪府吹田市で生まれ、千里ニュータウン、名神高速道路、東海道新幹線、1970大阪万博など次々と開発が進む、高度経済成長期の真っ只中の吹田市で育つ。当時の吹田は、田んぼ、ため池、雑木林、竹林などの里山が沢山残っていたが、その後1996年に息子たちを連れて同じ場所へ訪れた時の無惨な変わりように心が疼き、「身近な里山の自然と人の共生」をテーマに、吹田自然観察会、大阪自然環境保全協会で活動を始める。そして、自然環境調査のフリーランス調査員となり、2014年サシバプロジェクトin大阪を立ち上げる。